HamaMed-Repository
浜松医科大学学術機関リポジトリ
浜松医科大学
Hamamatsu University School of Medicine

ひくまの : 浜松医科大学附属図書館報. No. 52

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学附属図書館 公開日: 2018-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松医科大学附属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003381

浜松医科大学附属図書館報　No. 52　ISSN 0911-7822 *Hikumano*

ひくまの

Hamamatsu University School of Medicine
Library Bulletin　Mar, 2007
http:// www.lib.hama-med.ac.jp/

目　　次

・図書館の近未来像　英語　教授　遠藤幸英　… 1
・浜松医科大学における外国雑誌、電子ジャーナルについて　学術情報課　… 3
・図書館で働いて　医学科４年　菅原一晃…… 4
・2007 年新規購入・中止雑誌等のお知らせ …… 5
・シリーズ　二次資料の使い方　EBSCO CINAHL …… 6
・入退館システム更新に伴う入館方法の変更について …… 8
・平成 19 年度浜松医科大学附属図書館開館予定日 …… 8

図書館の近未来像

英語　教授　**遠　藤　幸　英**

知識の普及もさることながら、図書館は知性の発展に大きな貢献をしてきた。しかし、昨今パソコンや携帯電話の急速な普及のせいで、長らく栄光の歴史を誇ってきた図書館に翳りが見えてきたかのようである。「文字」を愛してやまない、博覧強記の人である松岡正剛は、2000 年から 7 年間にわたってインターネット上で膨大な書評集『千夜千冊』を完成させるという偉業を成し遂げた。だが、この松岡正剛でさえ書物の未来を多少とも憂えずにはおれない時代状況がある。松岡は、狡猾な圧制者が思想の国家統制を目的にとった全面的焚書政策を近未来の人間性抹殺の悲劇という形で描いたレイ・ブラッドベリ著『華氏 451 度』（1953 年）の書評でその不安を吐露している（第百十夜、2000 年 8 月 10 日）。

このSF小説は1966年にフランソワ・トリュフォー監督の手で映画化されているが、文字を奪われた人々は記憶術を駆使して権力者の暴挙に抵抗し始める。この作品は、はるか昔知恵（ホモ・サピエンス）の人としてことばを創造し、やがて文字文化を発達させた人類が秘める能力の偉大さをあらためて人間に思い知らせることとなった。

それからまた時代が移ろい、期待と不安を担った IT 革命という用語が日本社会に流通するようになって久しい。活字の詰まった書物はその存在価値が薄らいできている。分厚い辞書でさえ携帯電話に搭載したり、携帯から辞書サイトに即時アクセスできる現代である。あらゆる知識と情報を電子媒体に転換すれば、従来の書物どころか図書館でさえ無用の長物になる時代の到来はもはや夢物語ではなさそうだ。

今や「電脳社会」という表現が徐々に定着しつつある。電子情報技術が高度に発達した「電脳時代」はすでに始まっているともいえそうだが、こういう電脳社会や電脳時代を強烈な視覚的イメージに定着させたのがアニメ映画監督、押井守である。士郎正宗の原作アニメを翻案した『GHOST IN THE SHELL／攻殻機動隊』（1995年）とその続編『イノセンス（INNOCENCE）』（2004年）は、IT革命が自覚できないほど日常世界の隅々で展開している本国日本よりむしろ、功罪併せ持つ電脳社会の到来を強く意識している海外の国々に大きなインパクトを与えた。

一見したところ押井が描く世界は、思考し、語り、書き記すという人間の本来の能力を否定した科学技術によって支配されているようである。作中の人間を取り巻く環境は高度な電子通信技術によって徹底的に管理されている。そればかりでなく、登場人物の多くは、そういう社会管理に適したサイボーグないし半サイボーグである。主人公である公安警察の上級隊員、草薙素子（くさなぎ もとこ）の場合、全身がサイボーグ化されている。彼女（？）は外見上のみ女性の身体をもつが、実は人造皮膚に被われた高性能戦闘マシンなのだ。つまり、超人的な身ごなしと無敵に近い戦闘能力を誇るサイボーグとして電脳時代を象徴する存在である。

では、草薙の「人格」はあたかも一個人の人格のような形態に纏め上げられた「情報の集積」にすぎないのだろうか。それにしては作中で彼女のセリフとして音声化される記憶や思考や意識は事前にプログラミングされたものとはとても考えられないほど個性的である。コンピュータに管理されたネットワーク社会である電脳社会は「人格」や「個性」など必要としないはずだが、草薙はその精神に関する限りまぎれもなく一人の人間である。実際、全身がメカニックなパーツで構成されていながら、彼女にはゴースト（魂？）が宿っているという設定になっている。1995年版がGHOST IN THE SHELLと題されているのも、ハイテクの産物であるサイボーグの「身体」の内部に潜む「魂」をうかがわせるという意味でうなずける。ただし、電脳社会ではゴーストはたえず外部からのハッキングの危険に晒されている。だが、これとて人類にとって未知の事態ではない。「ファウスト伝説」は単なる作り話ではないのだから。

押井守が「ゴースト」にこめた意味は、近未来的サイボーグの完璧に管理された精神構造ではなく、むしろ人間特有の「意識」や「思考」であり、それを表象する「言語」に深く関わるように思える。人間の言語であるからには無限の創造と開発の可能性を秘めているはずだ。この無限大の可能性は日常的感覚には、いわば「迷宮」ととらえるほかないのではないか。作中、コンピュータの集積回路を思わせるイメージがプログラミングされたサイボーグの記憶や草薙の意識を表すものとして画面にあらわれるが、無数の微細な光の点滅は迷宮を連想させる。

話は飛躍するが、映画『薔薇の名前』（1986年）の迷宮のイメージに目を転じたい。この作品は哲学者ウンベルト・エーコの同名小説（1980年）をジャン＝ジャック・アノー監督が映画化したものだが、そこで描かれる迷宮めいた「図書館」は「ゴースト」が宿る場所ではないだろうか。表向き、映画は中世キリスト教会による異端思想の弾圧を扱うが、本当のテーマは人間が普遍的に持つ知的好奇心である。主要人物の一人、修道士ウィリアムが初めて訪れた教会の図書館で、時に焦り、時に冷静な推理を働かせながら異端の禁書のありかを探し求める。面白いことにこの探索行の間、彼は「迷宮をさ迷う」楽しみを感じている。おそらく、知性の集積であるこの迷宮めいた図書館そのものが人間の飽くなき知的好奇心の比ゆではないだろうか。

強引な言い草だが、電脳社会に存在する「ゴースト」もまた、非人間的にデジタル化された思考や意識ではなく、さまざまな危険をはらみながらも、きわめて人間的な知的好奇心を表象するように思える。人間は内面に「図書館」を築かずにおれない存在である。この内面の図書館は物理的な図書館として外在化されてもいる。そのおかげで、時代や国境や文化の差異を越えて人間は人類の知的遺産を共有できるのではないだろうか。

浜松医科大学における外国雑誌、電子ジャーナルについて

学 術 情 報 課

現在の学術論文（特に海外出版社から）の入手方法は相当程度電子ジャーナルによっています。

附属図書館の外国雑誌契約数は平成13年は267ですが、冊子体を電子ジャーナル化することにより平成19年の123まで減少（大学全体での購入は521から242：一つの契約で複数の雑誌を購入している場合を含むので実際の数とは異なります）しています。

この間にアクセスできる電子ジャーナルは平成13年には契約数無し（一部冊子体への付属などの無料のものを除く）から平成19年の4,000誌超となっています。

文献複写は外国雑誌に限ると6,108件から2,677件（平成17年度）まで減少しています（図1参照）。この間、電子的資料費（電子ジャーナルとデータベース等の資料費）は174万円（CD-ROMによるデータベース費のみ）から3,740万円となっています（図2参照）。また電子ジャーナルのアクセス（本文のPDFファイルを開いた数）も平成16年に50,000件を突破して以来、安定的に推移しています。

電子ジャーナルの契約は国立大学図書館協会または日本医学図書館協会への出版社からの提案（コンソーシアム提案）をもとに行っています。

現在はエルゼビア社のサイエンスダイレクト、シュプリンガー社のリンク、ブラックウェル社のシナジー、プロクエスト社のメディカルライブラリーのほかに、ネイチャー誌とその派生誌などを契約しています。

電子ジャーナルのコンソーシアム契約は従前の外国雑誌購入金額を元に年間契約金額が決まるので利用量には依存しません。従量制の料金は教育・研究活動をどこかで押さえることになりますので、大学内からアクセス無制限であることは適切だと考えられます。従前でしたら直接論文にあたりながらの研究は同一の雑誌を見ることによる時系列にそった狭い範囲だけの検索によるのが普通でしたが、データベースなどの検索から簡単かつ多様にアクセスできることにより電子化された資料全体からの「思いがけない」発見（知見）も期待できます。大学で利用可能な電子的リソースを統合して検索できる（リンクリゾルバ）システムも開発されつつあります。

現在の契約金額に縛られかつ毎年ほぼ一定の金額の値上げがあることは、国立大学の運営費交付金が毎年減額される現在の予算情況では大変厳しいものがあります。

インターネット上で展開される新しいサービスと電子的資料の増加に対応するため、附属図書館では平成20年の契約に向けて抜本的な見直し作業を開始しています。何を選択するか直接間接にご意見をうかがい作業を進めていきます。ご協力をお願いいたします。

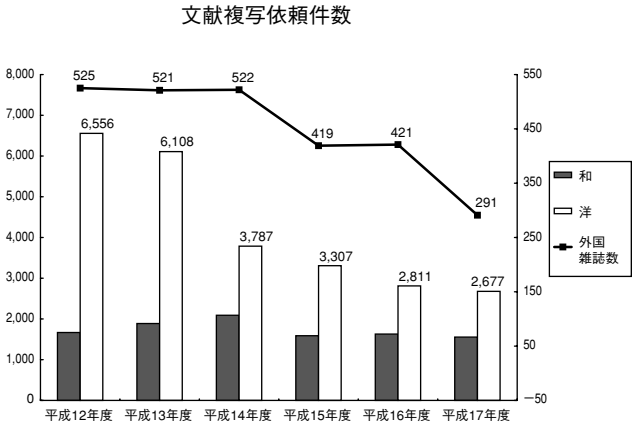

図1

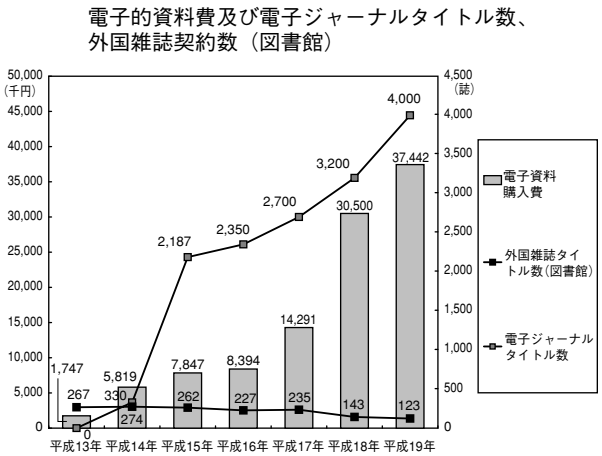

図2

図書館で働いて

医学科４年　**菅　原　一　晃**

何もやる気が起きない、お昼ご飯食べた後に時間が余っている、出たくない授業があって困っている。こんなときに多くの人はどうするか。
ケータイをいじったり、同じ学年の（不良みたいな）集団に加わってタバコの吸い方などを教えてもらう、とりあえず家に帰ってから考える、などいろいろあるだろうが、〈図書館に行く〉というのもそのうちの立派な選択肢のひとつであろう。

恥ずかしいことであるが、私は図書館との付き合いはそれほど長いものではない。高校生までは図書館という場所が本を読むための場所であるとは正直思っていなかった。確かに図書館に足を踏み入れることは多かったかもしれないが、そこで「本を読む」ことはほとんどなかったように思う。私にとって図書館とは、学校というものに必ず付いてくるただのおまけのようなもの、いわばポテトチップを買うと何故か袋に入っているカードのようなもので、図書館に通う人種というのもポテトチップのカードを集める人種というのも似たようなものとしか思っていなかった。

ところが、大学に入った途端に自分がポテチ（ポテトチップでは長いので略す）のカードを集める人間になってしまった、つまり暇があるととりあえず図書館に行って本を読んだり勉強したり、とそういう人間になってしまったのだから人生はわからない。オタマジャクシとそれが成長したカエルでは、そういうものであるという知識がなければ元々同じものであるという事がわからないが、同じように高校の先生が現在図書館に入り浸っている私を見ても、同じ人間とは思わないだろう。もっとも、中身が成長しているかどうかは怪しいものであるが。

さて、前置きが長くなってしまったが、図書館の仕事（アルバイト）を辞めるにあたって文章を書くように言われたので、とりあえずこのような形で書き出してみた。本当なら仕事で気づいた点や問題点を挙げ、今後の図書館の改善に役立つようなことを書くべきなのであろうが、それは私の興味・関心や力量を超えている。もし書こうとしても、大体古くてカビが生えている（注：メタファーではなく本当に！）ような昔の本を取り扱うことに果たして意味があるのか、など不満ばかりの文章になってしまうため、それは避けたいと思ったのも理由の一つである。そもそもそれらの点に関しては、職員の人たちに後日、告げればいいことであろう。よって、以下もつれづれなるままに書くつもりである。

私がこの図書館で最も利用しているのはインターネットが使えるパソコンスペースであるが、その次に来るのはどのスペースであろうか。まあ、恐らく毎回課題が出されて調べに行く医学書のスペースなのは間違いないであろうが。

医学図書館というだけあって、医学系の図書・雑誌はそれなりに充実しているものの（それに対しても異論があろうが今は問わない）、一般図書の品揃えは正直見劣りする。例えば、文庫は岩波文庫と岩波現代文庫、新書は岩波新書・中公新書・講談社現代新書のみである。もっといろんな種類のものを入れて欲しいと思うし、そういう声もよく聞くが、残念ながらそれに関しての改善は見られなさそうなので（予算などの面から仕方ない）、ここにある本を読んでいくしかないというありきたりな結論に毎回落ち着く。

しかし、実は限られた本しかないというのも悪いことではない。たくさんの種類がある図書館であれば見逃してしまうような本も、このような図書館であるからこそアンテナにかかる可能性がある。私も何度もそのような発見をしたかわからないし、また絶版になってしまった本も図書館であるからこそいつでも手に取れる。私がたまたま手にとって気に入った本を検索してみたら、実は絶版だったというようなことは一度や二度だけではない。別に本の価値は希少価値で決まるわけではないが、図書館を利用して本を読んでいるうちに当初は思いもしなかったような楽しみを見出している自分がいる。

だから、いまこの文章を読んでいる人で図書館をあまり利用していない人にはもっと図書館を利用して欲しいと言いたいし、よく利用している人にはいま自分がどのような視点で図書館を利用しているかを考えてみて欲しい。本は、そして図書館は、かならず人を成長させてくれる。なぜならそれはたくさんの人たちが通って来たパサージュそのものだからだ。

最後に、私が図書館で出会った作家の中で、とりわけ気に入っているベンヤミンの文章を挙げて、締め

くくりの言葉としたい。もちろん、この本もこの図書館に納められてあり、この『パサージュ論』というのは全5巻という凄まじい量なので、時間や根気のある人は挑戦して欲しい。

「パリのパサージュを扱ったこの著作は，丸天井に広がる雲ひとつない青い空の下の戸外で始められた〔パリの国立図書館の閲覧室の様子をこのように喩えている〕．だが，何百万枚という木の葉〔書物の山〕に，何世紀もの埃に埋もれてしまった．これらの木の葉には，勤勉のさわやか微風がそよめくこともあれば，研究者の重い溜め息が当たり，若々しい情熱の嵐が吹き荒れ，好奇心のちょっとした空気の動きがたゆたうこともあった．というのも，パリの国立図書館の閲覧室のアーケードの上にかかる描かれた夏空が，閲覧室の上に光のない，夢見心地の円蓋を広げているからである．」　［N1,5］（ヴァルター・ベンヤミン『パサージュ論』第3巻岩波現代文庫）

2007年新規購入・中止雑誌等のお知らせ

Ⅰ．新規購入

［国内雑誌］

1. Science（図書館）オンラインのみ
2. Journal of neurosurgery（脳神経外科学）

Ⅱ．購読中止

［国内雑誌］

1. 公衆衛生（健康社会医学）
2. 腎と透析（泌尿器科学）

［外国雑誌］

1. International journal of cancer（外科学第一）
2. Science（皮膚科学）
3. Journal of clinical epidemiology（健康社会医学）
4. Lasers in medical science（光量子医学研究センター・光化学治療寄付研究部門）
5. Prostate（泌尿器科学）
6. English teaching professional（英語）

以下は冊子体のみ中止・オンラインは継続

1. Acta psychiatrica Scandinavica（図書館）
2. Addiction（図書館）
3. American journal of gastroenterology（図書館）
4. BJOG : an international journal of obstetrics and gynaecology（図書館）
5. British journal of clinical pharmacology（図書館）
6. British journal of dermatology : official organ of British Association of Dermatologists（図書館）
7. British journal of haematology（図書館）
8. Clinical endocrinology（図書館）
9. Clinical transplantation（泌尿器科学）
10. Immunological reviews（図書館）
11. Journal for Specialists in Pediatric Nursing : JSPN（図書館）
12. Journal of advanced nursing（図書館）
13. Journal of neurochemistry : official journal of the International Society for Neurochemistry（図書館）
14. Journal of oral pathology & medicine（図書館）
15. Journal of the American Geriatrics Society（図書館）
16. The European journal of neuroscience（図書館）
17. The FEBS journal（図書館）
18. The Journal of physiology（図書館）
19. Transplantation proceedings（泌尿器科学）

統合誌

1.「脳と神経」＋「神経研究の進歩」　⇒　Brain and Nerve 神経研究の進歩

シリーズ　二次資料の使い方

EBSCO　CINAHL

4月からEBSCO CINAHLが導入される予定です。図書館のホームページからアクセスしてください。今回はCINAHLの使い方を簡単にご紹介します。

EBSCOhost CINAHL

★ **EBSCOhost CINAHL** には、**CINAHL** と **PreCINAHL** があります。

1. CINAHL　Cumulative Index to Nursing & Health Literature の略で看護文献を検索するデータベース。

収 載 年	1982～現在
対象分野	看護系雑誌、ヘルスケア関連書籍、看護学系学位論文、会議録、看護基礎実践本、教育用ソフト、ビデオ情報
収 録 数	2,700タイトル以上
更新頻度	毎週

2. Pre CINAHL　CINAHLにまだIndexが付与されていない最新の情報が収録されています。

基本画面

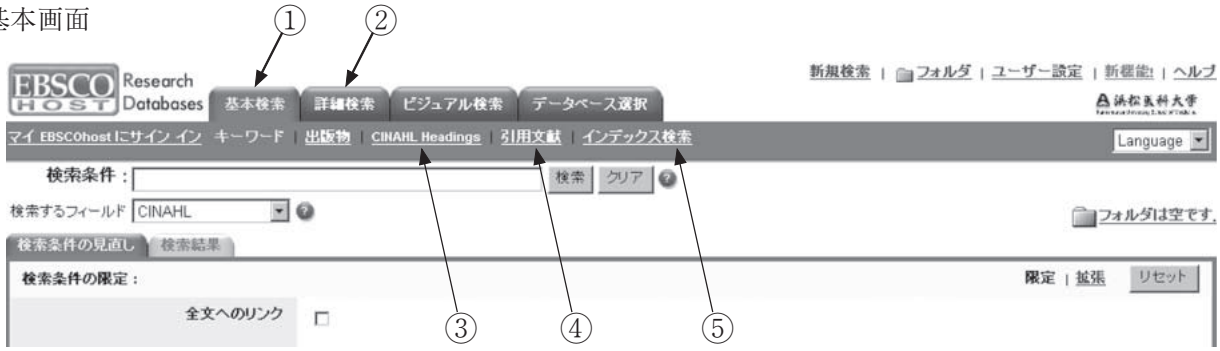

図1

主な検索方法

キーワードによる検索

①基本検索　検索条件にキーワードをいれ、「AND」「OR」「NOT」の演算子を使って検索します。検索条件の限定項目を指定し絞り込みができます。

②詳細検索　キーワードは3つまで入力できます。プルダウンメニューで「AND」「OR」「NOT」を選びます。各フィールドが設定されているので、該当のものを選んでください。

③CINAHL Headings 検索

シソーラス（統制語）による検索方法です。Subject Headingsを使うことにより効果的な検索ができます。

文頭一致、キーワードを含むもの、関連度ランクから選択しキーワードを入力します。該当のSubject Headingsを選び下位概念を含むものを検索する場合は「拡張」にチェックを入れ、主要なSubject Headings論文のものを選ぶときは、メジャーコンセプトにチェックを入れてください。

検索結果と印刷・保存

検索結果から必要とする該当文献の追加フォルダをクリックすると印刷用フォルダに格納されます。フォルダをクリックすると格納した文献が表示されます。（図2）

図2

印刷（保存）のアイコンをクリックすると印刷（保存）形式を聞いてきますので、該当のものを選んで印刷をかけてください。（図3）

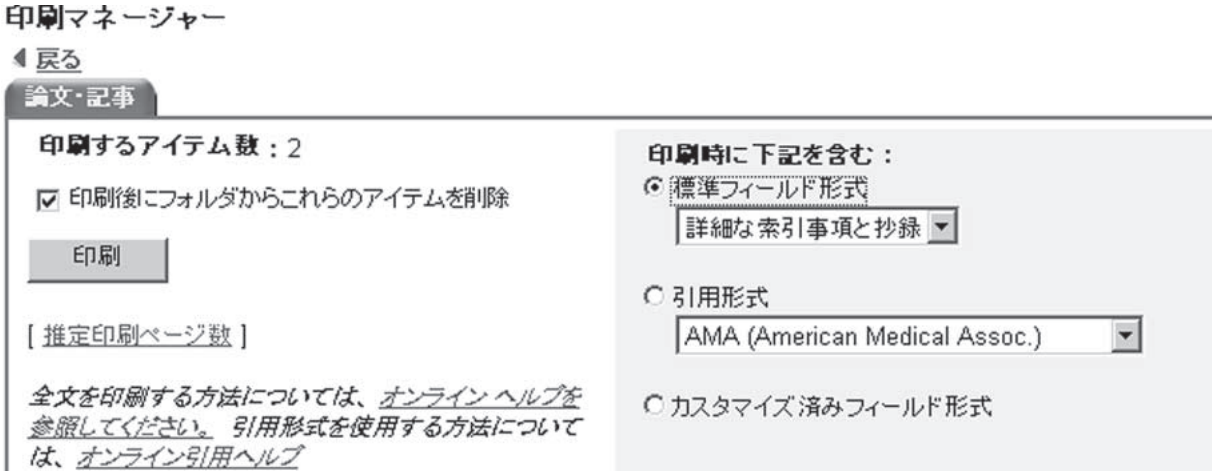

図3

他の検索方法　キーワードによる検索のほかに下記のものがあります。

④引用文献検索　引用著者、引用文献タイトルを入力するとCINAHLに収載されている引用文献・被引用文献の検索ができます。

⑤Index 検索　Index のブラウズの中から必要な項目を選択し、検索したいキーワード入力し、検索結果の項目にチェックを入れて検索ボタンをクリックします。

詳しい検索方法や使い方などは図書館にお尋ねください。

（情報サービス係）

入退館システム更新に伴う入館方法の変更について

附属図書館では4月に新しい入退館システムを導入し、本学発行の身分証明書、学生証、図書館利用証を利用した入館方法に変更します。

変更点

入館の際は、利用カード（身分証明書・学生証・図書館利用証のいずれか）が必要です。
図書館利用の際は忘れずに携帯してください。
カード裏のバーコードを読み取ります。　⇒
不正に入館しようとするとアラームが鳴ります。
カードをお持ちでない方または有効期限が切れた場合は
カウンターまでお申し出ください。

入館方法

利用カード（身分証明書・学生証など）のバーコードを
カードリーダーにかざしてください。
開錠のランプがつくと扉が開きます。

退館方法

退館の際は、利用カードは必要ありません。そのまま進むと扉が開きます。資料の貸出し手続きをしないで通過しようとするとBDSでチェックがかかりアラームが鳴ります。

平成19年度浜松医科大学附属図書館開館予定日

□ は閉館日　　土・日曜日 10：00−17：00

4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

8月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

11月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

1月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

3月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

浜松医科大学附属図書館報「ひくまの」No.52　　2007年3月30日発行
編集：図書館報編集委員会
発行：浜松医科大学附属図書館　〒431-3192 浜松市半田山一丁目20番1号 Tel. 053-435-2171 Fax. 053-435-5140